

最首 悟（さいしゅ さとる、1936年 - ）は、日本の社会学者、評論家、全共闘活動家、元和光大学人間関係学部教授（環境哲学）元人間関係学部学部長、元駿台予備学校論文科講師

人物

- 東大教養学部助手時代に東大闘争が活発化したが、最首は全学の助手有志とともに「助手共闘」を結成し、その中心メンバーとして全共闘運動に参加した。東大安田講堂事件を経て東大闘争が沈静化した後も、水俣病問題などへ積極的に取り組み、また、愛娘・星子が障害を持って生まれて来たことから、障害者問題へも深く関わって来た。そうした社会問題への関与から、大学当局とは対立し、東大では助手から先へは上がれず、27年間助手を務めたまま、定年退職した（なお、当時の国立大学の助手は国家公務員であったので、通常の生活にはさして困るわけではなかった）。その後、私立大学へ教授として迎えられた。
- 長年にわたって、駿台予備学校へも出講し、当初は生物科講師、のちに医学部受験者用の「医系小論文」を中心とする論文科講師となる。また、国立大学の分離分割方式導入以来、東大後期入試の総合科目I（理系英語）の責任者でもあり、青本執筆の他、3月の直前セミナーでは当該講座を担当している。
- 学んでいる学生がつくっているオルタナティブなNPOのシュレー大学の1999年の設立以来顧問・アドバイザーを勤めている。当初から続いている生命論(いのちろん)は、生物学、哲学、社会思想、60～70年代の学生運動論、「障害」論をはじめ、臨機応変、縦横に議論を展開し続けている。
- 茨城県の智森学舎予備校などへの出講経験もある。

経歴

- 1936年福島県生まれ、千葉県育ち
- 東京大学理学部動物学科博士課程中退
- 東京大学教養学部助手を27年間勤める
- 元恵泉女子園大学教授
- 障害者作業所「カブカブ」運営委員
- 津田塾大学や東京シュレー大学への出講経験もある

著書

大学受験参考書

- 『お医者さんになろう 医学部への小論文』（駿台文庫、2001年）
- （勝田 耕史・大原 正幸・船岡 富有子）『お医者さんになろう 医学部への英語』（駿台文庫、2002年）
- 駿台予備学校編 『大学入試完全攻略シリーズ 東京大学 理科 後期日程』（駿台文庫、年次版）など
- 通称、青本、総合科目Iの「出題分析と合格作戦」「解答・解説」執筆

評論集

- 『山本義隆潜行記』（講談社、1969年）
- 『生あるものは皆この海に染まり』（新曜社、1984年）
- 『半生の思想（河合ブックレット）』（河合文化教育研究所、1991年）
- 『明日もまた今日のごとく』（どうぶつ社、1988年）
- 『出月私記』（新曜社、1989年）
- 『水俣の海底から』（京都・水俣病を告発する会、1991年）
- 『星子が居る』（世織書房、1998年）
- （盛口 襄・山口 幸夫）『理科を変える、学校が変わる』（七つ森書館、2001年）
- 「ケアの淵源」（川本隆史）『ケアの社会倫理学（有斐閣選書）』（有斐閣、2005年）

ほか多数

寄稿論文・関連記事など

- 「『ホントウとは何か』予備校で考える」『ザ・予備校』（第三書館、1986年）pp. 200-205.
- 特集「教育変革と新しい予備校像」『駿台フォーラム』第19号（2001年）ISSN 02895579
- 「<予備>の持続と変容」
- 船岡富有子「医系英語論文マルチプレックスについて」

ほか多数

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%9C%80%E9%A6%96%E6%82%9F>より作成